

ちほの おしゃべりタイム



ひまわりの願い



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ〜テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

強い夏の日射しの下で黄金色に輝くひまわりの花。その畑を眺めると、沢山のひまわりが笑っているようにも見え、私たちに明るい希望や元気を届けてくれます。反戦と平和のシンボルとして、今年ほど、この花の持つ意味を考えさせられた年はないかもしれません。

また、ひまわりは、震災からの復興のシンボルでもあります。岐阜市在住の写真家・三浦寛行さんは、東日本大震災後、岩手県釜石市へ支援活動に出かけ、瓦礫の中から釜石東中学校の校名板を偶然にも発見したことをきっかけに、40回以上も東北へ足を運び交流を深めています。釜石東中学校は、子ども達が高台に避難したことで全員が助かり、「釜石の出来事」と呼ばれた学校です。

2019年には、ラグビー・ワールドカップの開催に合わせて、「はるかのひまわり」80鉢を用意され、国内外からの観客を出迎えました。このひまわりは、阪神淡路大震災で犠牲になった、当時11歳の少女・加藤はるかさんの自宅跡に咲いたひまわりにちなんで名付けられたものです。その種は、人から人へ渡り、皇室の方々も育てられ歌にも詠まれて来ました。令和最初の「歌会始の儀」では、秋篠宮妃紀子さまが、

高台に移れる校舎のきざはしに子らの咲かせし向日葵望む^{ひまはり}

と、釜石市を訪れた際に、東日本大震災後に移転した小中学校に続く階段にあったひまわりの鉢植えを見たことを詠まれました。2つの震災の記憶を風化させたくないと考えた三浦さんの想いが確実に広がり、力強く咲くその姿は、復興への願いと命の尊さを伝え続けています。三浦さんはその後、防災士の資格も取得され、防災意識を高めてもらうために各地で写真展や防災講演会を行っています。

日本のどこかが災害に見舞われた直後には私たちの防災意識も高まりますが、月日がたつと危機感が薄れてしまいがちです。日頃からできる備えとしては、家族との連絡方法を決めておくことや、保存の利く食材を多めに買っておくこと、避難経路の確認などがあります。携帯電話に災害対策アプリを入れて活用するのもよさそうです。最近、気象情報からは予測のつかない災害も多く、早くから備えておくことは大切ですね。

かつて、イタリアはトスカーナの片田舎で見た、延々と続くひまわり畑が今も目に焼き付いています。のどかな風景の中に息づくその生命力。しかし、今ひまわりの花を見ると、様々なメッセージを持って咲いているような気がしてなりません。ひまわりの花言葉は「あなただけを見つめる」。一人一人がかけがえのない命であること、そして、その命が尊重される世の中であってほしいと思いました。